



EBA Diversity Fieldwork

千嶋広恵、吉田佳乃

はじめに

今回の EBA Fieldwork では、「日本の郊外に在住するブラジル人青少年の生活や進路・キャリアを調査し、日本国内のグローバル化や移民の現状を理解し、包括的で持続可能な社会について考える」をテーマとしたフィールド調査を行った。フィールドをよく知る「フィールドマスター」と協力し、近畿地方のブラジル人学校に通う在日ブラジル人学生を対象として、進路・キャリアについて考えるオンラインワークショップを提供した。ワークショップ参加に事前登録した49名(そのうち実際に参加した37名)の進路・キャリアに対する意識について調査を行った。また、日本で子育てをする在日ブラジル人1名、日本の大学院に通うブラジル人留学生1名へのインタビューを行った。

調査からの発見

- ・今回調査を行った近畿地方のブラジル人学校においては、中高生の想定する進路・キャリアの幅は日本の中高生と同様に広いと言える。「大人になったら何になりたい?」という質問では、全体で 36 個の職業があげられ、その内容も日本人の中高生と大きく違いはなかった。具体的には、「日本の中高生の人気職」に上がる職業を答えた割合が約半数、「その他の職業」が約 30%、「わからない」が約 20% であった。なお、日本の中高生の人気職は、ソニー生命「中高生が思い描く将来についての意識調査 2021」の男子・女子中高生がそれぞれ将来になりたい職業 10 位以上の職業から抽出した。「その他」で挙げられた中では、翻訳者、バーテンダー、ものかき、マーケティング分野、建築家が珍しい回答として見られ、他は、警官、会計士、医師（脳神経外科医）・獣医、パイロット / スチュワーデスなど日本の子どもたちからもよくあげられる回答であるといえる。
- ・進学を希望する学生は 66.7%、そのうちおよそ半数の学生が、日本への進学に関心を持っていた (図 1)。
- ・出入国在留管理庁の「令和 2 年における留学生の日本企業等への就職状況について」によると、外国人留学生のうち卒業後に日本企業へ就職した人数は、29,689 人外国人留学生の最終学歴は 11,392 人が大学であり、全体の 38.4% と最も多い(図 2)。外国籍の若者が日本で就職するためには、大学への進学は重要な要素の一つであると考えられる。

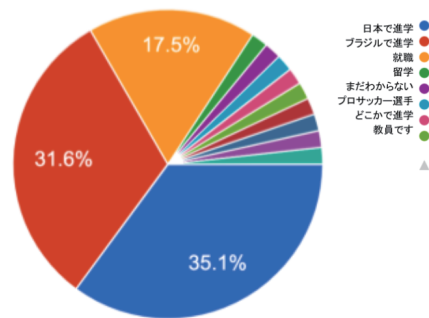


図1：卒業後の進路について

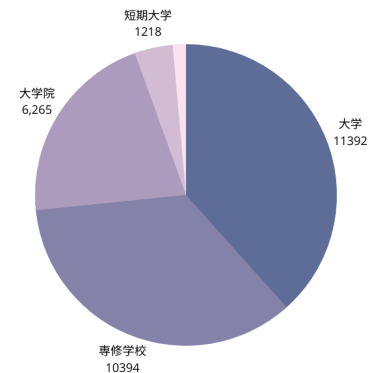


図2：法務省 出入国在留管理庁「留学生の日本企業等への就職状況について」

・彼らに近い在日ブラジル人の先輩への質問として、外国人向けの奨学金に関する質問(8名)、先輩本人の進路・キャリアについて聞く質問(10名)が多かった。また、ワークショップ中、先生1名から「奨学金のリストがほしい」という意見が出た。

・奨学金や日本語・英語などの語学能力に関する質問は、日本の大学への進学を意識したものが多く、ブラジルへの進学を希望する学生からもこのような質問が見られた。また、日本の大学院に通うブラジル人留学生は、「外国人向けキャリア情報の収集にgaijin pot や LinkedIn、Facebook を利用しているが、探すのはやはり難しい」と話していた。

考察

以上の調査結果から、在日ブラジル人学生に対するポルトガル語での情報提供が十分ではない、彼らと情報を持つ人との接点が少ないことではないかという結論に至った。

提案

私たちはそれを解決するべく「在日ブラジル人同士や日本人とのつながりを生み、参加者同士の交流や情報流通を促進するコミュニティ・ビルディング」を提案する。

在日ブラジル人学生を主なターゲットとし、対象者が自発的に進路・キャリアなどに関する情報を共有しながら、つながりを強く情報を太くするための具体的な要素として、以下が挙げられる：

- ・居住地や学年に関わらず、在日ブラジル人学生（中学生・高校生・大学生）がオンラインでも、対面でもつながることができる。
- ・在日ブラジル人の先輩（経験者）とつながる。



- ・在日ブラジル人学生同士が気軽にインタラクティブできる環境作り。例えば、ゲームやもくもく会など気軽に関係構築できる会を開く。なお、もくもく会とは、複数人がオンライン・対面で集まって各自「黙々」と作業をするイベントを指す。
- ・日本の大学生が組織し、コミュニティと日本社会とブリッジする。

<コミュニティ運営の例>

■参加者

在日ブラジル人の学生：学生同士の情報交換、先輩への質問

在日ブラジル人の先輩：学生からの質問回答

日本の大学生：運営者、管理

■活動内容

学生同士の情報交換や先輩への質問を通じて、学生や進路・キャリア情報を収集することが主な活動内容。加えて、運営者がゲームやもくもく会などのアクティビティを企画・参加者の募集を行い、参加者同士の交流を促進する。

これらのコミュニティ構築に向けた取り組みにより、情報へのアクセス機会がすべての人に平等かつ公平に与えられる社会の実現に貢献できると考える。